

アクサ生命保険 安刈聖司社長

アクサ生命保険(東京)の安刈聖司社長は、仙台市内で河北新報社の取材に応じた。同社は東日本大震災の教訓を全国の教育現場で共有しようと「減災教育プログラム」に取り組み、生命保険の役割が多様化する中、「地域の持続的発展に向けた活動を続けたい」と語った。

「聞き手は報道部・高橋一樹」

―震災から8年半が経過した。

「2014年から国連教育科学文化機関(ユネスコ)と減災



減災教育支援続ける 教員集め震災遺構を視察

仙台市と気仙沼市の被災地で防災・減災に関する研修や震災遺構の視察を行った

「防災教育がそれぞれの学校に取り入れられ、回を重ねるごとに効果を実感している。全国

で地震や豪雨が相次ぎ、今後も災害とは付き合っていかなければならない。地域に寄り添った取り組みを続けたい」

―18年7月、健康経営の推進に向けた連携協定を宮城県と締

「当社では社員の大半が東京商工会議所認定の健康経営アドバイザーとなり、個々のライフプランの分析など専門的な相談に乗る体制を整えた。社内に野菜メニューをそろえたフードワゴンを出すなど意識向上に努めている。宮城でも仙台支社を中心に計175人のネットワークを生かして健康経営を広めていく」

―生命保険業界の現状をどう見る。

「少子高齢化で『人生100年時代』を迎え、病歴に応じた保険やがん治療向けの保険などニーズが多様化している。デジタル技術も活用しながら、顧客の人生設計と健康を一緒に考えていきたい」



早大 卒業。1979年三菱商事入社。S MFL キヤピタル社長、ピザ・ワールドワイド・ジャパン社長を経て2019年4月から現職。64歳。神戸市出身。

結した。

「企業経営者や従業員の健康のため、中小企業の経営者向けにセミナーを開催するほか、個別の企業が健康経営の優良法人に認定されるための支援を行っている。健康経営は生産性の向上だけでなく採用面にもプラスになる」